OLYMPUS

2022年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2022年2月4日

（スライド1）

- CFOの武田でございます。

- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2022年3月期　第3四半期　決算説明会」にご参加いただき誠に有難うございます。

- まず、私から2022年3月期　第3四半期の連結決算概況、および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

Page 2

ハイライト

第3四半期及び累計実績

- ☑ 売上高： 医療分野を中心に伸長し、3Q累計実績で+23%成長
  FY2020比でも2桁成長となり、パンデミック前を大きく上回る水準
- ☑ 営業利益： 売上回復及び販管費の効率化により、3Q累計営業利益は額・率ともに過去最高*

通期業績見通し

- ☑ 売上高： FY2020（パンデミック前）を超える水準、医療分野は過去最高の見込み
- ☑ 営業利益： 額は1,440億円、率は約17%と、ともに過去最高を見込む
- ☑ 当期利益**： 過去最高の1,090億円となる見通し
- ☑ 株主還元： 年間配当は2円増の14円を予定。自己株式の取得約300億円を見込む

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から
**親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

Page 3 OLYMPUS

（スライド3）

- スライド3ページをご覧ください。
- 2022年3月期 第3四半期決算における主なポイントです。
- まずは売上高です。
- 医療分野を中心に伸長し、3Q累計の連結業績で+23%と大幅な成長となりました。
- 2020年3月期と比較しても、12%の2桁成長となり、パンデミック前を大きく上回る水準を確保しました。
- 売上回復及び販管費の効率化により、3Q累計の営業利益は額・率ともに過去最高となっています。
- 続いて通期業績見通しです。
- 前回公表の見通しから大きな変更はございません。
- 売上高はパンデミック前を超える水準となり、医療分野の売上高は過去最高となる見込みです。
- 営業利益は1,440億円、率は約17%と、ともに過去最高を見込んでおります。
- 当期利益も過去最高の1,090億円となる見通しです。
- 株主還元ですが、年間配当は前年比2円増の14円を予定し、自己株式の取得は約300億円を見込んでおります。

OLYMPUS

01 2022年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

（スライド4）

- それでは、2022年3月期 第3四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2022年3月期　第3四半期実績 ①連結業績概況

1 売上高：　医療分野を中心に伸長し、連結で+23%の成長。FY2020（パンデミック前）と比較しても大幅な成長
2 営業利益：　売上回復および販管費の効率化により、3Q累計の営業利益は額・率ともに過去最高*

	3Q累計実績（4-12月）							3Q実績（10-12月）						
（単位：億円）	FY2020	FY2021	FY2022	FY2021比	為替除き FY2021比	FY2020比	為替除き FY2020比	FY2020	FY2021	FY2022	FY2021比	為替除き FY2021比	FY2020比	為替除き FY2020比
売上高	5,613	5,136	1 6,298	+23%	+16%	+12%	+8%	1,929	1,971	2,167	+10%	+3%	+12%	+6%
売上総利益（売上総利益率）	3,676 (65.5%)	3,235 (63.0%)	4,118 (65.4%)	+27%	+22%	+12%	+9%	1,248 (64.7%)	1,275 (64.7%)	1,416 (65.3%)	+11%	+5%	+13%	+9%
販管費（販管費率）	2,782 (49.6%)	2,502 (48.7%)	2,936 (46.6%)	+17%	+13%	+6%	+2%	932 (48.3%)	887 (45.0%)	1,022 (47.1%)	+15%	+10%	+10%	+5%
その他損益等	▲47	▲86	▲93	-	-	-	-	▲28	▲44	▲68	-	-	-	-
営業利益（営業利益率）	847 (15.1%)	647 (12.6%)	2 1,089 (17.3%)	+68%	+58%	+29%	+26%	289 (15.0%)	344 (17.5%)	327 (15.1%)	▲5%	▲13%	+13%	+6%
調整後営業利益（調整後営業利益率）	**897 (16.0%)**	**735 (14.3%)**	**1,188 (18.9%)**	**-**	**-**	**-**	**-**	**318 (16.5%)**	**389 (19.8%)**	**396 (18.3%)**	-	-	-	-
税引前利益（税引前利益率）	805 (14.3%)	619 (12.1%)	1,036 (16.5%)	+67%				271 (14.0%)	336 (17.0%)	298 (13.7%)	▲11%			
当期利益**（当期利益率）	591 (10.5%)	16 (0.3%)	877 (13.9%)	+5,298%				231 (12.0%)	243 (12.3%)	253 (11.7%)	+4%			
EPS	45円	1円	68円					-	-	-				

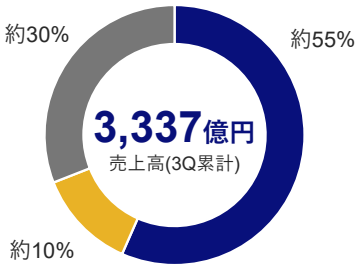
*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から
**親会社の所有者に帰属する当期利益

Page 5　OLYMPUS

（スライド5）

- スライド5ページをご覧ください。
- 連結売上高は、6,298億円です。医療分野を中心として、全事業で売上が増加し、23%の成長となりました。2020年3月期と比較しても+12%となり、パンデミック前を上回る水準となりました。
- なお、新型コロナウイルスの感染拡大や半導体をはじめとした部品供給に関する影響について、一部においては影響が見られたものの、連結業績への影響は軽微でした。
- 売上総利益は4,118億円、売上総利益率は2.4ポイントの改善です。増収を主な要因として、工場の操業度が改善したこと、前年同期に計上した内視鏡・処置具製品の自主回収費用がなくなったことも寄与しています。
- 販管費は、2,936億円、販管費比率は2.1ポイントの改善です。活動の制限緩和や運営基盤強化及び収益性改善に向けた施策もあり、額としては増加しましたが、売上増も大きく寄与し、率としては46%台に抑えています。
- その他の費用として、Transform Olympus関連費用や科学事業の分社化に向けた費用等も計上しましたが、営業利益は1,089億円、営業利益率は4.7ポイント改善し17.3%でした。
- なお、Investor dayにてご説明させていただいた調整後営業利益率は、18.9%となり、2023年3月期の営業利益率20%超の目標に向けて順調に進捗しています。
- 当期利益は、877億円と、前年同期比で860億円増加しました。前期は映像事業の譲渡に伴う損失もあり、今期は大幅な改善となりました。
- 第3四半期（10-12月）の3カ月の業績概況についてもご説明いたします。
- 治療機器事業や科学事業を中心に増収となりましたが、販管費の増加やその他費用で科学事業の分社化に向けた費用も発生し、減益となりました。
- 販管費につきまして、前年同期は事業活動が徐々に戻ってきている中で費用発生も少ない状況だったことに加え、今期は活動の制限緩和や運営基盤強化及び収益性改善に向けた施策もあり、額としては増加しています。

2022年3月期　第3四半期実績 ②内視鏡事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

内視鏡事業全体

	FY2021						FY2022			
単位: 億円	1Q	2Q	3Q	3Q累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	743	970	1,054	2,767	1,170	3,937	1,000	1,206	1,131	3,337
営業利益	124	299	316	739	249	988	227	390	300	916
その他の損益**	▲4	▲2	▲8	▲13	▲46	▲59	▲22	▲10	▲9	▲40
営業利益率（為替影響調整後）	16.7%	30.8%	30.0%	26.7%	21.2%	25.1%	22.7% (23.7%)	32.3% (31.9%)	26.5% (27.0%)	27.4% (27.8%)

決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値／*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

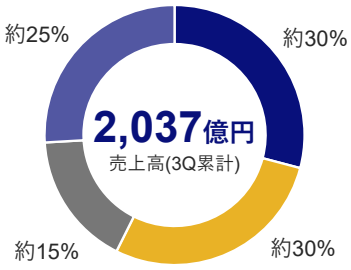
FY2022 vs FY2021 3Q（10-12月）売上高成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ 消化器内視鏡	4%	▲3%	▪ オーストラリア・韓国を含むアジアパシフィック地域及び日本で好調に推移。「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることに加え、一世代前のスコープ等も増収に寄与。中国・欧州は減収。中国は、予算執行の停滞等が発生したこと及び2Qにおける納入の前倒しも影響。欧州は前年同期に英国等で大型入札案件もあり、減収
■ 外科内視鏡	17%	9%	▪ 厳しい競争環境等により中国では減収となった一方、欧州、北米、日本で好調に推移。欧州ではロシアでの大型入札案件に加え、北米では「VISERA ELITE Ⅱ」への切り替えを推進
■ 医療サービス	10%	2%	▪ 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上、新規契約の増加に加え、新型コロナウイルスの影響からの回復により、中国、欧州を中心に堅調に推移
合計	7%	0%	（参考値：社内管理ベース）FY2020比 +5%成長

Page 6　OLYMPUS

（スライド6）

- スライド6ページをご覧ください。
- 各セグメントの概況について、ご説明いたします。
- まず内視鏡事業です。売上高は3,337億円、21%のプラス成長でした。営業利益は916億円、営業利益率は27.4%でした。
- 活動の制限緩和による費用の増加や、その他の費用で内視鏡事業における開発資産に関する減損損失16億円等がありましたが、売上成長により、増益となりました。
- 事業概況ですが、第3四半期（10-12月）の状況を中心にお話します。
- 前年同期は新型コロナウイルスからの回復基調でプラス成長に転換していましたが、今期の売上は地域により状況が異なっており、前年並みにとどまりました。
- 消化器内視鏡は、オーストラリア・韓国を含むアジアパシフィック地域及び日本で好調に推移しました。「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることに加え、一世代前のスコープ等も増収に寄与しました。
- 一方、中国・欧州は減収となりました。中国は、予算執行の停滞等が発生したこと及び第2四半期における納入の前倒しの影響がございました。また、欧州は前年同期に英国等で大型入札案件があったことによる反動減がありました。
- なお、「EVIS X1」シリーズの売上割合は徐々に上昇してきており、第3四半期（10-12月）において、消化器内視鏡のサブセグメントの中で10%を超えております。
- 外科内視鏡は、厳しい競争環境等により中国では減収となった一方、欧州、北米、日本で好調に推移しました。
- 欧州ではロシアで大型入札案件があったことに加え、北米では「VISERA ELITE II」への切り替えを推進しています。
- 医療サービスは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上、新規契約の増加に加え、新型コロナウイルスの影響からの回復により、中国・欧州を中心に堅調に推移しました。

2022年3月期　第3四半期実績 ③治療機器事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

治療機器事業全体

	FY2021				FY2022					
単位: 億円	1Q	2Q	3Q	3Q累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	430	587	623	1,640	679	2,318	636	695	706	2,037
営業利益	37	63	132	232	74	306	141	162	136	438
その他の損益**	▲3	▲1	▲3	▲7	▲22	▲30	25	▲4	▲8	13
営業利益率（為替影響調整後）	8.5%	10.7%	21.3%	14.1%	10.9%	13.2%	22.1% (23.1%)	23.3% (23.0%)	19.2% (19.5%)	21.5% (21.8%)

決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値／*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

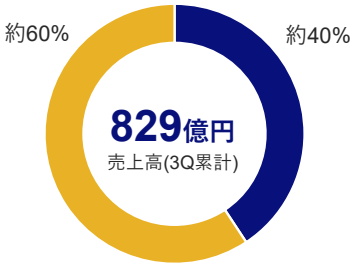
FY2022 vs FY2021 3Q（10-12月）売上高成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ 消化器科（処置具）	11%	6%	▪ 引き続き症例数が回復傾向にあり、欧州、米国で好調に推移。特にERCP、サンプリング（生検鉗子等）、ESD・EMR用の製品群の売上が拡大
■ 泌尿器科	20%	11%	▪ 引き続き症例数が回復傾向にあり、BPH用の切除用電極と尿路結石用破砕装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功した北米が特に好調に推移。欧州はロシアで大型案件もあり、好調に推移
■ 呼吸器科	13%	4%	▪ 中国は予算執行の停滞等により減収となった一方、新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、Veran Medical Technologies社の売上、EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡（超音波気管支鏡の新製品を含む）等が好調に推移した北米で大幅な成長を実現
■ その他の治療領域	9%	3%	▪ 耳鼻科で好調に推移。特に耳鼻咽喉科向け内視鏡の売上が寄与
合計	13%	6%	（参考値：社内管理ベース）FY2020比 +8%成長

Page 7　OLYMPUS

（スライド7）

- スライド7ページをご覧ください。
- 治療機器事業です。売上高は2,037億円、24%のプラス成長でした。営業利益は438億円、営業利益率は21.5%でした。
- 活動の制限緩和等により費用は増加したものの、売上成長に加えて、前年同期に計上した気管支鏡製品の自主回収費用56億円、処置具製品の自主回収費用20億円がなくなったことにより、原価率が大幅に改善したことやその他の収益でMedi-Tate社の段階取得に係る差益28億円を計上したこともあり、大幅な増益、また営業利益率は大きく改善しました。
- 事業概況ですが、第3四半期（10-12月）の状況を中心にお話します。前年同期は2020年3月期並みの水準に回復しておりましたが、今期も緩やかな回復傾向が続いており、全ての分野でプラス成長となっております。また、社内管理の参考数値では、2020年3月期と比較しても8%のプラス成長と、パンデミック前を上回る水準となりました。
- 消化器科処置具では、欧州と米国で好調に推移しました。膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP（Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術）用の製品群、スクリーニング検査における組織採取に用いられる生検鉗子等のサンプリングや、病変の切除に使用されるESD(Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術)・EMR(Endocopic Mucosal Resection/ 内視鏡的粘膜切除術)用の製品群が売上を拡大しました。
- 泌尿器科においても、BPH（Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症）用の切除用電極と尿路結石用破砕装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System（ソルティブ スーパーパルスド レーザーシステム）」の拡販が奏功した北米で特に好調に推移しました。また、欧州でもロシアで大型入札案件があり、好調に推移しました。
- 呼吸器科では、中国で予算執行の停滞等により減収となった一方、北米で大幅な成長になりました。北米では、Veran Medical Technologies社の売上も加わったほか、EBUS-TBNA(Endobronchial ultrasound-guided Transbronchial Needle Aspiration/ 超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡等が好調に推移しました。
- その他の治療領域では、耳鼻科が好調に推移しました。特に、耳鼻咽喉科向け内視鏡の売上が寄与しています。

2022年3月期　第3四半期実績 ④科学事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

科学事業全体

	FY2021						FY2022			
単位: 億円	1Q	2Q	3Q	3Q累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	178	226	266	669	289	959	248	283	297	829
営業利益	▲16	18	27	30	20	49	19	46	49	114
その他の損益**	▲3	3	0	0	▲13	▲12	▲2	▲1	▲2	▲5
営業利益率（為替影響調整後）	-	8.1%	10.3%	4.4%	6.9%	5.2%	7.5% (8.1%)	16.3% (15.4%)	16.4% (15.6%)	13.7% (13.3%)

**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2022 vs FY2021 3Q（10-12月）売上高成長率	円ベース	為替影響調整後	
■ ライフサイエンス	7%	0%	▪ 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が堅調に進むも、前年同期に中国が好調に推移したこともあり、前年並みの水準
■ 産業	15%	7%	▪ 全体的な市況回復に伴い、引き続き設備投資状況が改善。5G関連の電子部品や半導体市場が活発であることから工業用顕微鏡が好調に推移。また市場環境に回復傾向が見られる工業用内視鏡、非破壊検査機器も売上増加に寄与
合計	12%	4%	（参考値：社内管理ベース）FY2020比 +6%成長

Page 8　OLYMPUS

（スライド8）

- スライド8ページをご覧ください。
- 続いて科学事業です。売上高は829億円、24%のプラス成長でした。
- 営業利益は114億円、営業利益率は13.7%でした。
- 売上の回復を主要因として、工場の操業度の改善と費用の統制により、大幅な増益となりました。
- 事業概況ですが、第3四半期（10-12月）の状況を中心にお話します。
- 新型コロナウイルスの影響からの回復を主要因に、プラス成長となりました。
- 社内管理の参考数値では、2020年3月期と比較して、6%の増収となりました。
- ライフサイエンス分野では、新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が堅調に進みましたが、前年同期に中国が好調に推移したこともあり、前年並みの水準となりました。
- 産業分野では、全体的な市況回復に伴い、引き続き設備投資状況に改善が見られています。
- 5G関連の電子部品や半導体市場が活況であることから工業用顕微鏡が好調に推移したことに加え、市場環境に回復が見られる工業用内視鏡、非破壊検査機器も売上増加に寄与しました。

財政状態計算書

- ☑ 営業CFの増加に伴って、現預金が増加
- ☑ Medi-Tate社の買収等により、のれんと無形資産等が増加
- ☑ 2021年6月に約7,200万株の自己株式の消却を実施（823億円）
- ☑ 2021年12月外債を発行（USD500M）

（単位：億円）	2021年3月末*	2021年12月末	増減額
流動資産	5,801	6,573	+773
棚卸資産	1,589	1,670	+81
非流動資産	6,034	6,356	+323
有形固定資産	2,392	2,382	▲10
無形資産・その他	2,368	2,428	+60
のれん	1,274	1,546	+273
資産 合計	11,835	12,930	+1,095

	2021年3月末*	2021年12月末	増減額
流動負債	3,284	3,333	+49
社債及び借入金	315	516	+201
非流動負債	4,596	4,794	+198
社債及び借入金	3,237	3,415	+178
資本	3,955	4,803	+848
自己資本比率	33.3%	37.1%	+3.8pt
負債及び資本合計	11,835	12,930	+1,095

有利子負債：　3,931（2021年3月末比+378）
現金及び現金同等物：2,751（2021年3月末比+576）
純有利子負債：　1,180

*2021年3月期に発生したVeran Medical Technologies社、Quest Photonic Devices社の企業結合について、第1四半期連結会計期間、第2四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において暫定的な金額の修正を行っています。これに伴い、2021年3月期の数値を遡及して修正しています。

（スライド9）

- スライド9ページをご覧ください。
- 2021年12月末の財政状態です。
- 営業キャッシュフローの増加に伴って、現預金が増加しました。
- また、投資有価証券が80億円減少しております。当社グループの中長期的な企業価値向上に資すると判断した上場株式を保有するという方針のもと、投資有価証券の最適化を進めております。
- 他は大きな変動要因はございません。
- Medi-Tate社の買収を実施したこと等により、のれんと無形資産等が前期末より増加しています。
- 自己資本比率は前期末比で3.8ポイント増加し、37.1％となりました。
- また、6月には約7,200万株の自己株式の消却、12月にはUSD500Mの外債の発行を行いました。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： 581億円のプラス。Medi-Tate社の買収による216億円の支出、社外転進支援制度の引当金取り崩しに伴う112億円の一時要因を考慮すると、909億円のプラス
- ☑ 財務CF： 外債発行による調達の一方、借入金の返済や配当金支払などにより93億円のマイナス

第3四半期実績（4-12月）

（単位：億円）	2021年3月期	2022年3月期	増減
税引前利益	619	1,036	+417
営業キャッシュフロー	890	1,153	+262
投資キャッシュフロー	▲1,150	▲571	+579
フリーキャッシュフロー	▲260	581	+841
財務キャッシュフロー	520	▲93	▲613
現金及び現金同等物期末残高	1,877	2,751	+874

2022年3月期第3四半期（4-12月）の主な一時要因

営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩による支出	112億円
投資CF：事業・子会社等の取得による支出	216億円

（スライド10）

- スライド10ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、1,153億円、前年同期比プラス29%となりました。業績回復に伴う利益水準の改善による大幅な増加があった一方、社外転進支援制度の引当金の取り崩しに伴う支出112億円等がありました。
- 投資キャッシュフローは、前年同期から579億円増加となりました。前期、複数のM&Aの実施により400億円の支出があったことに加えて、定期預金400億円の預入を含んでいたこと、今期のM&Aによる支出も考慮すると、ほぼ横ばいとなりました。
- フリーキャッシュフローは、581億円のプラスです。一時要因である社外転進支援制度の引当金の取り崩しに伴う支出、Medi-Tate社の買収による支出も考慮すると、909億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、613億円減少、93億円のマイナスとなりました。外債発行による調達の一方、借入金の返済や配当金の支払等によりマイナスとなりました。
- 結果、12月末の現金及び現金同等物残は874億円増の2,751億円となりました。

OLYMPUS

02 2022年3月期 通期業績見通し

（スライド11）

- 次に、2022年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

1 売上高： FY2020（パンデミック前）を超える水準、医療分野は過去最高となる見込み
2 営業利益： 額は1,440億円、率は約17%と、ともに過去最高を見込む
3 当期利益*： 過去最高の1,090億円となる見通し

（単位：億円）	2022年3月期 11月5日公表見通し		2022年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	FY2020比	2021年3月期 通期実績**	2020年3月期 通期実績**
売上高	8,560	1	8,620	+60	+1%	0%	+18%	+14%	7,305	7,552
売上総利益 （売上総利益率）	5,610 (65.5%)		5,670 (65.8%)	+60	+1%	0%	+23%	+17%	4,595 (62.9%)	4,828 (63.9%)
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	4,000 (46.7%)		4,050 (47.0%)	+50	+1%	+1%	+13%	+6%	3,570 (48.9%)	3,812 (50.5%)
その他の収益および費用等	▲170		▲180	-	-	-	-	-	▲205	▲94
営業利益 （営業利益率）	1,440 (16.8%)	2	1,440 (16.7%)	0	0%	▲3%	+76%	+56%	820 (11.2%)	922 (12.2%)
調整後営業利益 （調整後営業利益率）	**1,615 (18.9%)**		**1,625 (18.9%)**	-	-	-	-	-	**1,021 (13.5%)**	**1,031 (14.1%)**
税引前利益 （税引前利益率）	1,390 (16.2%)		1,390 (16.1%)						768 (10.5%)	866 (11.5%)
親会社の所有者に帰属する当期利益* （親会社の所有者に帰属する当期利益率）	1,090 (12.7%)	3	1,090 (12.6%)						657 (9.0%)	606 (8.0%)
EPS	85円		85円						10円	39円

2022年3月期配当
年間配当14円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
**「売上高」から「税引前利益」まで、継続事業の金額を表示しています。なお、当期利益は「継続事業からの当期利益」を表示しています。

（スライド12）

- スライド12ページをご覧ください。
- 通期業績見通しです。
- 前回公表の見通しから大きな変更はございません。
- 売上高はパンデミック前を超える水準となり、医療分野の売上高は過去最高となる見込みです。
- 新型コロナウイルスの感染拡大による影響については、引き続き状況を注視しますが、連結業績への影響は軽微と見込んでおります。
- また、半導体をはじめとした部品供給に関しては、刻一刻と状況が変化しており、年度末にかけて一部の製品について納入遅れ等が生じる可能性がありますが、引き続き本リスクの影響の最小化に向け対策を講じてまいります。
- 営業利益は1,440億円、率は約17%と、ともに過去最高を見込んでおります。
- 当期利益も過去最高の1,090億円となる見通しです。
- 2022年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、14円を予定しております。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル112円、1ユーロ130円 としております。

通期業績見通し ②セグメント別業績

1 内視鏡・治療機器： 売上、営業利益ともに医療分野としてパンデミック前を上回る過去最高となる見込み
2 全社消去： ITインフラや品質法規制対応等の運営基盤強化及び業務効率向上に向けた施策の実行のため、修正

単位：億円		2022年3月期 11月5日公表見通し	2022年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	2021年3月期 通期実績
内視鏡	売上高	4,530	1 4,590	+60	+1%	0%	+17%	3,937
	営業利益	1,270	1,310	+40	+3%	+1%	+33%	988
治療機器	売上高	2,760	2,770	+10	0%	▲1%	+19%	2,318
	営業利益	550	570	+20	+4%	2%	+87%	306
科学	売上高	1,140	1,140	0	0%	▲1%	+19%	959
	営業利益	155	155	0	0%	▲4%	+213%	49
その他	売上高	130	120	▲10	▲8%	▲8%	+31%	92
	営業利益	▲25	▲25	0	0%	0億円	▲18億円	▲7
全社・消去	営業利益	▲510	2 ▲570	▲60	▲60億円	▲58億円	▲54億円	▲516
連結合計	売上高	8,560	8,620	60	1%	0%	+18%	7,305
	営業利益	1,440	1,440	0	0%	▲3%	+76%	820

（スライド13）

- スライド13ページをご覧ください。
- セグメント別の業績見通しです。前回公表した内容から、セグメントの数字を一部見直しています。
- 内視鏡事業と治療機器事業を合わせた医療分野は、売上、営業利益ともに過去最高となる見通しです。
- 全社消去ですが、ITインフラや品質法規制対応等の運営基盤強化及び業務効率向上に向けた施策の実行のため、修正しました。

OLYMPUS

03 真のグローバル・メドテックカンパニーに向けて

（スライド14）

- 最後に、真のグローバル・メドテックカンパニーに向けた取り組みについてご説明します。

プロダクトパイプライン：内視鏡事業（2022年2月4日時点）

経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化

リユース内視鏡の競争優位性の堅持
継続的な技術革新と販売力

シングルユース内視鏡によるポートフォリオ拡充
リユース内視鏡を補完する製品ラインアップの提供

現在の主力製品	直近の新製品 / 発売予定の製品	中長期のパイプライン
消化器内視鏡 ▪ EVIS LUCERA ELITE（日本、中国） ▪ EVIS EXERA III（米国、欧州） **外科内視鏡** ▪ VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能（欧州、日本） ▪ VISERA ELITE II 2D（米国） ▪ VISERA ELITE（中国） ▪ VISERA 4K UHD（米国、欧州、日本、中国）	**消化器内視鏡** ▪ EVIS X1（欧州、日本） ▪ 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V（米国） ▪ 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID（欧州） **外科内視鏡** ▪ VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国) ▪ VISERA ELITE II 2D/3D/**IR機能**（中国）	**消化器内視鏡** ▪ EVIS X1（米国、中国） ▪ EVIS X1 3D機能 ▪ シングルユース十二指腸内視鏡 **外科内視鏡** ▪ 次世代外科内視鏡システム（欧州、日本）

~6%
内視鏡事業 年平均成長率*

*FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR
*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

（スライド15）

- スライド15ページをご覧ください。
- 内視鏡事業のプロダクトパイプラインです。
- 消化器内視鏡システム「EVIS X1」を欧州、日本、アジア一部地域で発売しており、着実に売上を拡大しております。
- 「EVIS X1」を発売していない地域においては、早期に確実に販売を開始できるよう、認可取得に向けた活動を行っています。
- また、中国において、外科内視鏡システム「VISERA ELITE II 」のIRシステムの発売を開始しました。

プロダクトパイプライン：治療機器事業（2022年2月4日時点）

経営戦略：治療機器事業への注力と拡大

消化器科
既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大

泌尿器科
前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上

呼吸器科
オリンパス製品とVeran Medical社製品でシナジーを創出するとともに、BLVR*市場も拡大することにより、肺がん領域のポートフォリオを拡大し、リーダーシップを強化

現在の主力製品

消化器科
- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科
- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System（米国、欧州）

呼吸器科***
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科
- 5製品（米国）
- 5製品（欧州）
- 6製品（日本）
- 3製品（中国）

泌尿器科
- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind （米国、欧州）

呼吸器科***
- 電磁ナビゲーションシステム（米国）
- シングルユース気管支鏡（米国）
- 超音波気管支鏡（米国）

中長期のパイプライン

消化器科
- シングルユース胆道鏡

泌尿器科
- シングルユース尿管鏡

呼吸器科***
- 電磁ナビゲーションシステム（欧州）
- EVIS X1 気管支鏡 （米国）
- シングルユース気管支鏡

~8%
治療機器事業
年平均成長率**

*Bronchoscopic Lung Volume Reduction **FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR ***FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。
*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

Page 16 OLYMPUS

（スライド16）

- スライド16ページをご覧ください。
- 次に治療機器事業のパイプラインです。
- 第2四半期から変更はございません。引き続き、製品の拡販、新製品の導入を通じて、製品ラインナップの拡充を進めていきます。

治療機器事業：泌尿器科の成長を牽引する製品

SOLTIVE SuperPulsed Laser System*
より早くより確実な結石破砕に貢献

用途
- 結石治療の結石破砕術（レーザー）

市場
- 市場全体の規模 1,800億円／市場成長率 4% [1]

特徴
- オリンパスは、ツリウムファイバーレーザー技術を使った結石破砕装置開発のパイオニアとしてSOLTIVEを導入。クリニカルスタディでは、Holmium: YAG（ホルミウム・ヤグレーザー）と比較し、症例時間を短縮し、**コストの低減かつ患者さんのアウトカム向上に貢献することを示す**[2]
- 2022年3月期3Q累計の売上は計画を20%上回る実績
- コア市場での売上およびシェアの継続的拡大、ポートフォリオの強化を図ることにより、**今後3年間に亘って、二桁成長を見込む**

米国、カナダ、欧州、アジアで発売済み

PLASMA+*
経尿道的切除術をサポートするTURisシステム

用途
- 前立腺肥大症の経尿道的切除術（バイポーラ）

市場
- 市場全体の規模 950億円／市場成長率 12% [1]

特徴
- オリンパスは、**差別化されたPLASMA技術で長年にわたってリーダーシップを発揮**しており、レゼクトスコープ、電極、高周波電源装置の統合プラットフォームを提供
- **プロダクトリーダーとして、差別化された症例へのソリューションと前立腺肥大症の治療のための電極を提供。**
  統合プラットフォームについては膀胱がんの治療にも対応が可能
- 患者数および症例数の増加と第3世代システム（PLASMA+）の導入地域を拡大することにより、**今後3年間に亘って、1桁半ばの成長を見込む**

欧州、オーストラリアで発売済み
米国、アジアではFY2022に発売予定

[1] 結石治療とBPH（前立腺肥大症）の市場規模と市場成長率には、SOLTIVEおよびPLASMA+の適用外の症例、製品カテゴリ（前立腺肥大症低侵襲治療デバイス等）が含まれます。
[2] Ryan, JR; Nguyen, MH; Linscott, JA; Nowicki, SW; Jumper, BM; Ingimarsson, JP; "PD54-07: Thulium Fiber Laser Results in Shorter Operating Times During Ureteroscopy and Laser Lithotripsy;" The Journal of Urology, September 2021; accessed Nov. 2, 2021.

*注：医薬品医療機器等法未承認品。一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

OLYMPUS

（スライド17）

- スライド17ページをご覧ください。
- 注力分野である泌尿器科のグロースドライバーである2つの製品をご紹介します。
- まず尿路結石用破砕装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System（ソルティブ スーパーパルスド レーザーシステム）」です。
- 第3四半期累計で売上は計画を20%上回っており、泌尿器科のグロースドライバーとして成長を加速していきます。
- また、腎臓結石の治療において、Holmium: YAG（ホルミウム・ヤグレーザー）と比較し、症例時間を短縮し、コストの低減かつ患者さんのアウトカム向上につながるというクリニカルスタディの結果が論文で発表されました。詳細につきましては、2022年1月18日付けのオリンパスアメリカのプレスリリースをご覧ください。
- 続いて、「PLASMA+」です。
- オリンパスは、世界で初めてTURis専用の電極、高周波電源装置を開発してから、この分野で圧倒的なシェアを誇っており、市場をリードしてきました。
- 第3世代システムである「PLASMA+」に搭載されているバイポーラ技術は、切除性能、処置の選択肢、安全性、効率性等、あらゆる面がすぐれた技術であり、導入地域を拡大することで、継続的な成長を見込んでいます。
- このように、今後も患者さんのケア・パスウェイに着目し、革新的な技術を通じて、市場のニーズを満たすソリューションを提供していきます。

OLYMPUS

FY2022重点施策

FY2022

グローバル・メドテックカンパニーとしての深化

医療ビジネスにおける
収益性の高い成長戦略の深化

Transform Olympusによる
企業体質の更なる改善
および基盤強化

今後の成長を牽引する
製品開発への
着実な投資継続

サステナブルな社会に資する
ESGへの取り組み

- ☑ Global Business Servicesの推進
- ☑ オリンパスシステムズのアクセンチュアへの株式譲渡が完了
- ☑ コーポレート・ベンチャー・キャピタル「Olympus Innovation Ventures」の設立
- ☑ 「Dow Jones Sustainability World Index（DJSI World）」に選定
- ☑ 医療分野における戦略的な方針を策定（OLYMPUS Investor Day 2021）
- ☑ 科学事業の分社化を正式決定し、新会社の全株式を第三者に譲渡することを念頭に検討

（スライド18）

- スライド18ページをご覧ください。
- 今期は「グローバル・メドテックカンパニーとしての深化」をテーマに掲げ、前期に実行した企業変革の継続と定着に取り組んでいます。
- 第3四半期の進捗を中心にご説明いたします。
- まず、世界の代表的なコーポレート・サステナビリティ評価指標である「Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World)」の構成銘柄に初めて選定されました。
- 今後も、ESG 観点を取り入れた活動を積極的に行うことで持続可能な社会のために貢献し、グローバル規模での企業の社会的責任を果たしてまいります。
- 続いて、医療分野における戦略的な方針を策定し、2021年12月7日のInvestor Dayで発表しました。
- 最大限の力を発揮できる診療分野・疾患領域を明確にし、対象疾患の診療水準を向上させることを目標として掲げ、更なる成長と収益性の向上を目指します。
- 最後に、科学事業の分社化の進捗につきましては、次のスライドでご説明します。

科学事業の分社化の進捗

- ☑ 2022年4月1日を効力発生日（予定）として、新たに設立した完全子会社である株式会社エビデントに対し、吸収分割により当社の科学事業を承継させる吸収分割契約を2022年1月14日に締結
- ☑ 分割後に株式会社エビデントの全株式を第三者に譲渡することを念頭に置いた検討を実施

生物顕微鏡

工業用顕微鏡

非破壊検査機器

工業用内視鏡

蛍光X線分析計

科学事業の分社化により、医療分野と科学事業のそれぞれの事業特性に合った経営体制を確立することで、持続的な成長と収益性向上に向けた取り組みを加速させ、オリンパスグループ全体の企業価値の向上を図る

（スライド19）

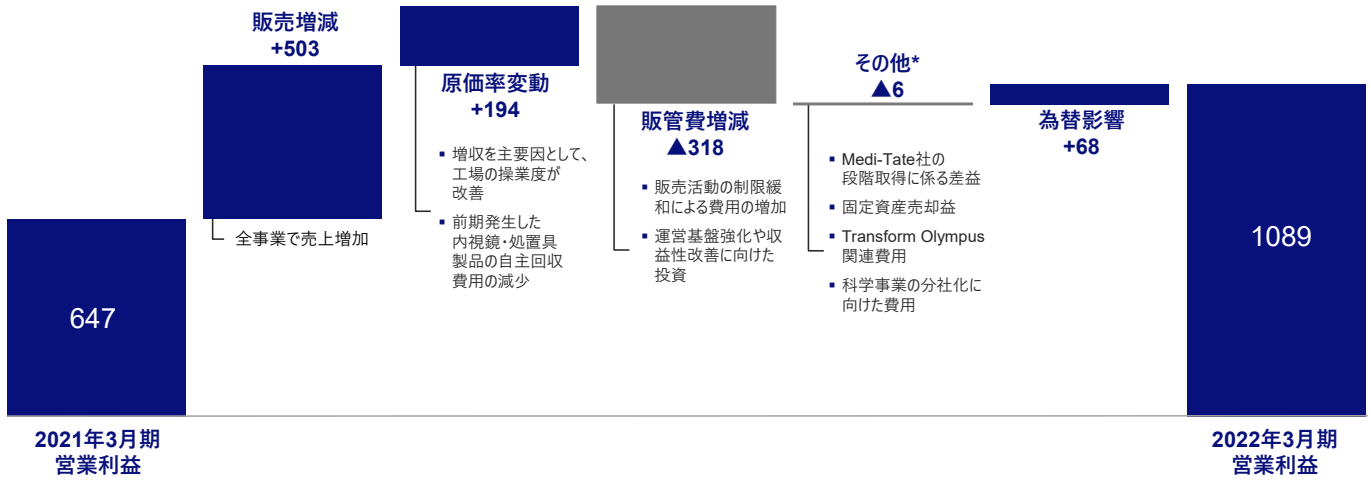
- スライド19ページをご覧ください。
- 科学事業の分社化に関して、2022年4月1日を効力発生日として、新たに設立した完全子会社である株式会社エビデントに対し、吸収分割により当社の科学事業を承継させる吸収分割契約を2022年1月14日に締結しました。
- 現在、本会社を分割後に株式会社エビデントの全株式を第三者に譲渡することを念頭に置いた検討作業も進めております。
- 科学事業の分社化により、医療分野と科学事業のそれぞれの事業特性に合った経営体制を確立することで、持続的な成長と収益性向上に向けた取り組みを加速させ、オリンパスグループ全体の更なる企業価値の向上を図ります。
- 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

OLYMPUS

参考資料

2022年3月期　第3四半期実績　連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績（4-12月）



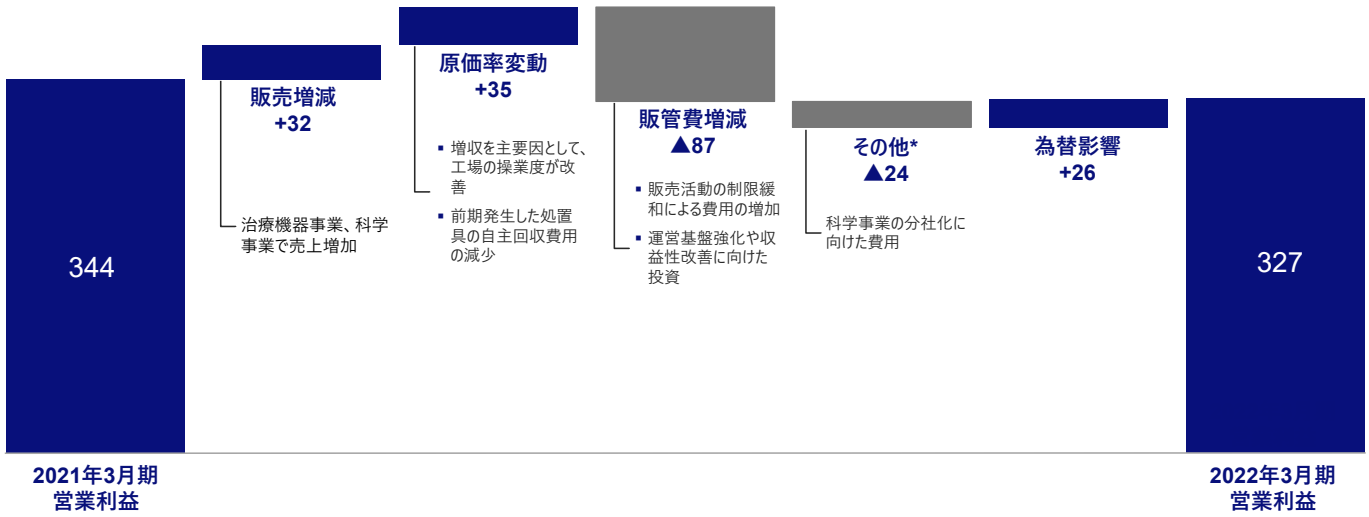
（単位：億円）　*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

OLYMPUS

OLYMPUS

2022年3月期　第3四半期実績　連結営業利益増減要因

第3四半期実績（10-12月）



（単位：億円）　*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

2022年3月期　第3四半期実績 セグメント別概況

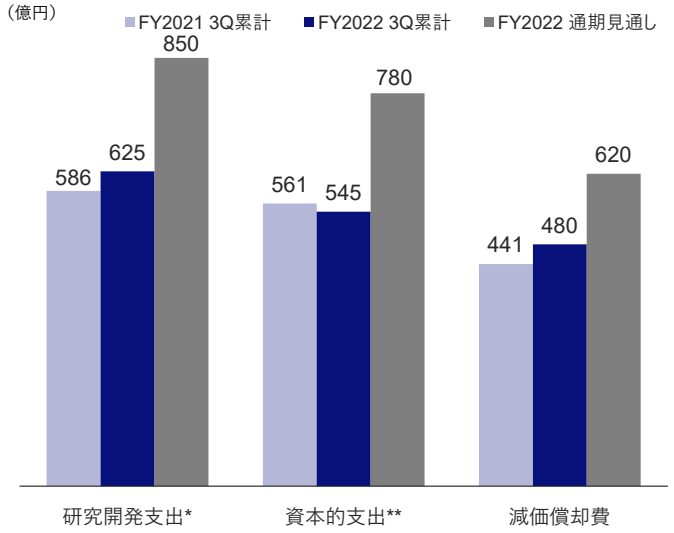
（単位：億円）		3Q累計実績（4-12月） 2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	為替影響調整後	3Q実績（10-12月） 2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	2,767	3,337	+21%	+14%	1,054	1,131	+7%	0%
	営業利益	739	916	+24%	+18%	316	300	▲5%	▲10%
治療機器	売上高	1,640	2,037	+24%	+17%	623	706	+13%	+6%
	営業利益	232	438	+89%	+82%	132	136	+3%	▲2%
科学	売上高	669	829	+24%	+17%	266	297	+12%	+4%
	営業利益	30	114	+284%	+252%	27	49	+78%	+58%
その他	売上高	60	95	+58%	+54%	28	33	+17%	+15%
	営業損益	▲15	▲15	0億円	+1億円	▲6	▲3	+2億円	+2億円
全社・消去	営業損益	▲338	▲364	▲26億円	▲25億円	▲125	▲154	▲29億円	▲27億円
連結合計	売上高	5,136	6,298	+23%	+16%	1,971	2,167	+10%	+3%
	営業利益	647	1,089	+68%	+58%	344	327	▲5%	▲13%

*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

Page 24

投資等

第3四半期累計実績（4-12月）および通期見通し



（単位：億円）	FY2021	FY2022
研究開発支出* (a)	586	625
開発費資産化　(b)	116	124
損益計算書上における研究開発費　(a-b)	470	502

（単位：億円）	FY2021	FY2022
償却費	64	68
	2021年9月末	2021年12月末
開発資産残高	599	601

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。／ **資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。（FY2021 3Q累計：178億円、FY2022 3Q累計：113億円、FY2022 通期見通し：130億円）

為替及び為替感応度

為替

（単位：円）	FY2020 3Q	FY2020 3Q累計	FY2021 3Q	FY2021 3Q累計	FY2022 3Q	FY2022 3Q累計	FY2022 年間見通し
円／USドル	109	109	105	106	114	111	112
円／Euro	120	121	125	122	130	131	130
円／CNY	15	16	16	15	18	17	17

為替感応度（年間）

（単位：億円）	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	23	10
ユーロ（1円あたり）	16	7
人民元（1円あたり）	68	45

Page 26